

機関庫保存とまちおこし ～JR 豊後森駅周辺開発～

この計画は、大分県玖珠町に現存する扇型機関庫（豊後森機関庫）の保存再生を中核に据えた駅周辺の開発計画です。豊後森機関庫は、昭和9年の久大本線全線開業以来、昭和46年のディーゼル機関車投入まで、久大本線の拠点でした。一方、玖珠町は「童話の里くす」をコンセプトとしてまちづくりを進めています。本計画では、機関庫の保存再生利用と童話の里づくりのための空間計画を提案しています。

1. 玖珠町と機関庫

私の地元でもある大分県玖珠町は、湯布院温泉と水郷で有名な日田市の二大観光地に挟まれた、人口1万9千人の小さな町です。玖珠町は、この地出身の今は亡き童話作家久留島武彦にちなんで「童話の里」をテーマとしてまちづくりを進めています。毎年5月に開催される「日本童話祭」には県内外から多くの人々が訪れます。

そんな玖珠町には、京都の梅小路と玖珠町にしか現存しないコンクリート造の扇型機関車倉庫が廃墟のような状態で眠っています。この機関庫は、昭和9年の久大本線全線開業以来、昭和46年のディーゼル機関車投入まで、久大本線の拠点でした。戦争体験をした機関庫は貴重な建造物であり、転車台も残っています。テレビなどでもたびたび紹介され、鉄道マニアをはじめとし、全国からこの機関庫を見学に来る人々が後を絶ちません。機関庫は多くの人達が魅力を感じる芸術的、文化的建造物です。



写真 1 現在の機関庫（筆者撮影）

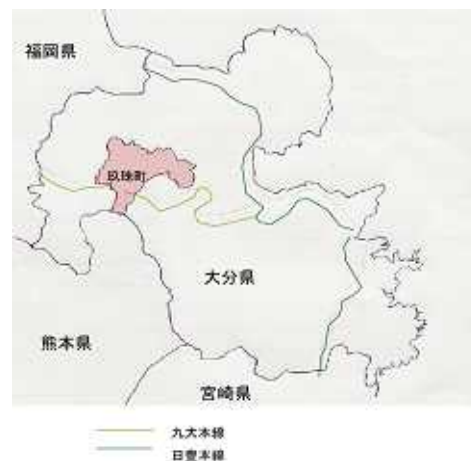


図 1 玖珠町位置図

2. 全体計画（図 2 参照）

私は多くの人々に玖珠町の機関庫を知ってもらいたいと思い、機関庫保存を中心とした JR 豊後森駅周辺開発計画を提案します。機関庫にはなるべく手を加えず、そのままの形で保存することを前提とします。

計画施設は、機関庫保存のための機関庫保存公園（イベント広場・子供広場）、駅からの来訪者を招く遊歩道とペDESTリアンデッキ、建築物としては保存機関庫、童話館、一村一品館、新豊後森駅です。建築物は機関庫の意匠をデザインモチーフにします。

玖珠町は以前から緑は多いが子供の遊び場、公園がないといわれてきました。玖珠町の総合計画では将来像を「自然とこどもの王国くす」としており、より多くの人達に機関庫を知ってもらうためにも機関庫周辺に公園をつくり、「日本童話祭」のメイン会場として利用します。それ以外にもフリーマーケットなど様々な玖珠のイベントをここで開催します。童話館東の子供広場は見通しもよく子供を遊ばせるには安心です。

来訪者の主要動線を、新豊後森駅から遊歩道、ペDESTリアンデッキを通り機関庫保存公園とします。ペDESTリアンデッキでは機関庫を正面に見て、独特の雰囲気を持つ機関庫が近づいてくるような感覚を肌で感じてもらいます。また、ペDESTリアンデッキは一村一品館ともつながっており二つの人の流

れをつくります。

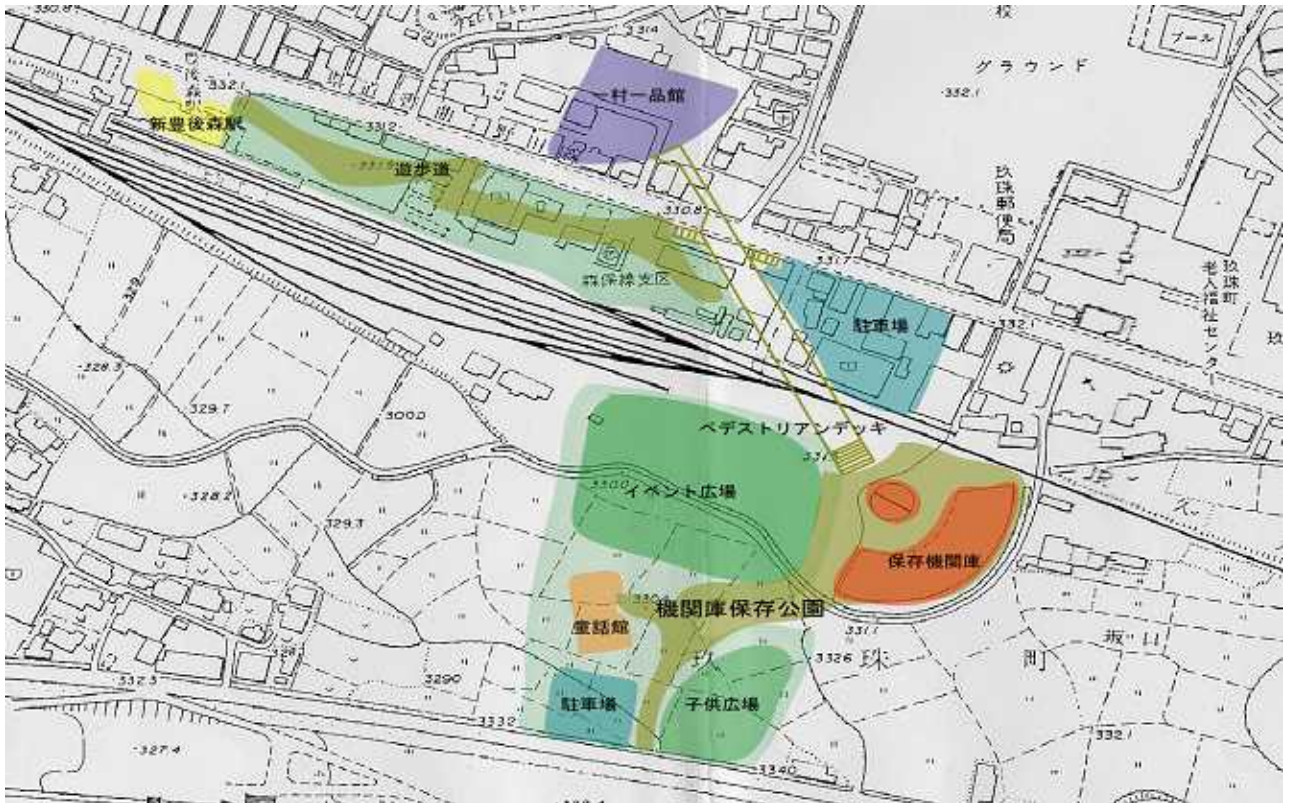


図 2 全体計画

3. 各施設の計画

(1) 機関庫保存 (図 - 3)

機関庫は建設当時の姿を大切に保存し、人々が内部を見て回れるようにします。内部には機関庫と当時の機関車キハ07型を展示します。危険のない範囲で、極力の過去の状態を復元し、機関庫は鉄道マニアだけのものではなく、歴史的文化的遺産であるということを感じてもらいます。

(2) 童話館 (図 - 4)

「童話の里くす」とよばれる玖珠町です。機関庫とともに新たな玖珠の顔となってもらうため公園内に童話館を計画します。一階には玖珠町の童話、お話を集めた童話資料コーナー、子供たちの教育の場の童話体験コーナー、なつかしの駄菓子などがある「きちょくれショップ」を、二階には機関庫、鉄道の歴史を学ぶ鉄道資料館、玖珠の象徴でもあり童話にも出てくる切り株山を望めるテーブルマウンテン展望デッキを設けます。



図 3 保存機関庫パース



図 4 童話館と機関庫パース

意匠としては機関庫の列柱のイメージを取り入れており、子供達に「君たちはまだ白いキャンパスだ、これから何色の絵の具を塗るかは、君たちの自由だ」というメッセージを送るために主要構造部を白色にします。

(3) 一村一品館 (図 - 5)

大分県では一村一品とって、各市町村で最低でもひとつの特産品を持つ、という運動が全国的に有名です。ちなみに玖珠町は吉四六漬けです。

そこで、一村一品館では県内すべての市町村の一村一品物と地元特産品を販売します。又、二階には飲食テナントが入り、機関庫の見学とあわせてくつろぎスペースを考えました。

意匠として、大きな曲線と直径一メートルの大きな柱が機関庫をイメージさせます。



図 5 一村一品館パース



図 6 一村一品館と新豊後森駅パース

(4) 新豊後森駅 (図 - 7)

現在の豊後森駅は随分と老朽化が進んでおり、また、多くの方が機関庫を見るために訪れるであろう豊後森駅の建て替えを計画します。せっかく機関庫を見に来ても駅が老朽化してはがっかりです。

意匠としては、機関庫の扇形と柱をふんだんに取り入れ、新機関庫と呼べるものとなりました。

これからは機関庫の町に訪れるお客さんは機関庫を思わせる空間をくぐり抜けて機関庫を見学に行くことができるでしょう。



図 7 新豊後森駅パース



図 8 全体鳥瞰図